

# 平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ベニズワイガニ

学名 *Chionoecetes japonicus*

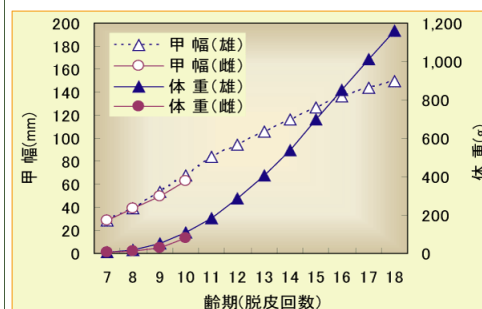
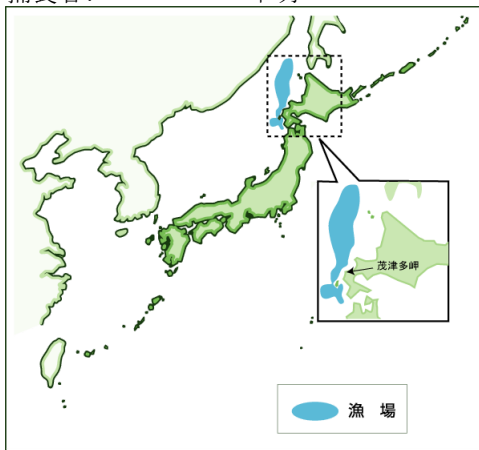
系群名 北海道西部系群

担当水研 北海道区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 不明(脱皮回数を示す齢期は判明しているが、脱皮間隔が不明)  
成熟開始年齢: 初回成熟甲幅は雄75mm、雌55mmとされる、年齢は不明  
産卵期・産卵場: 産卵期は12～3月、産卵場は特定されていない  
索餌期・索餌場: 日本海では500～1,700mに多く分布する、摂餌場としては特定されていない  
食性: 不明  
捕食者: 不明

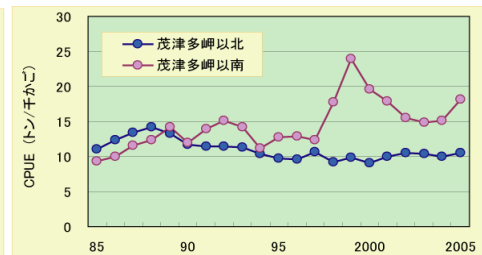
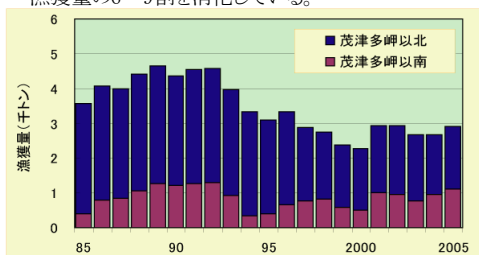


## 漁業の特徴

北海道におけるベニズワイガニ漁業はかにかごによって行われる。主に缶詰製造に用いられるが、ゆでて出荷されることもある。2005年度の操業隻数は茂津多岬以南海域が2隻、茂津多岬以北海域が3隻の合わせて5隻であった。資源保護の見地から、漁獲の対象は甲幅95mm以上(漁業者団体の自主規制は甲幅100mm以上)の雄のみに制限されているほか、北海道によって許容漁獲量が設定されており、各漁船への個別割り当て量に従って操業を行っている。操業期間は、茂津多岬以南では3～8月、以北では7月～翌年4月。集計にあたり、茂津多岬以北海域における翌年分(1～4月)の漁獲については、その前年分(7～12月)の漁獲に足し合わせて扱った。

## 漁獲の動向

1990年代以降、漁獲量は減少傾向にあったが、近年は2,000～3,000トン前後で推移している。北海道が設定した2005年の許容漁獲量は、茂津多岬以北が2,100トン、茂津多岬以南が1,100トンであった。近年は両海域ともに許容漁獲量の6～9割を消化している。



## 資源評価法

許容漁獲量が設定されていることを考慮すると、漁獲量によって資源水準と動向を判断するのは適切でない。茂津多岬以北海域と以南海域で、CPUEの推移や甲幅組成に海域差が認められたことから、CPUEを資源水準の指標としてそれぞれの海域の資源を評価した。

## 資源状態

2005年度のCPUEは茂津多岬以北海域では10.5トン/千かご、茂津多岬以南海域では19.6トン/千かごで、1985年以降21年間のCPUEの変動幅の中でそれぞれ11番目および3番目にあることから、以北海域の資源状態は中位、以南海域の資源状態は高位と判断した。また、両海域とも直近5年間のCPUEの推移からその動向は横ばいと判断した。北海道が設定する許容漁獲量による漁獲制限の下で、両海域ともに一定以上の値のCPUEが持続しており、現状の漁獲圧で資源は安定的に利用されているものと考えられる。

茂津多岬以北海域 茂津多岬以南海域



## 管理方策

現状の漁獲圧で資源は安定的に利用されていることから、現状の漁獲圧レベルを維持し、これを上回らないように調整する。茂津多岬以北海域と以南海域のそれぞれのABCLimitは、2001～2005年度の平均漁獲量に、2001～2005

年度のCPUEの変動傾向が2007年度まで継続すると仮定して予想される2007年度のCPUEと、2001～2005年度のCPUEの平均値の比(茂津多岬以北海域1.02、以南海域1.07)を乗じて算出した。

| 2007年漁獲量                     | 管理基準             | F値 | 漁獲割合 |
|------------------------------|------------------|----|------|
| ABClimit (茂津多岬以北海域) 1,900トン  | 1.02Cave5-yr     | -  | -    |
| ABClimit (茂津多岬以南海域) 1,000トン  | 1.07Cave5-yr     |    |      |
| ABCTarget (茂津多岬以北海域) 1,900トン | 1.0・1.02Cave5-yr | -  | -    |
| ABCTarget (茂津多岬以南海域) 1,000トン | 1.0・1.07Cave5-yr |    |      |

資源評価のまとめ

- 資源の分布とCPUEや甲幅組成にみられる海域差から、茂津多岬以北海域と以南海域に分けて評価を実施した
- 1985年以降のCPUEの推移から資源水準と動向をそれぞれの海域について判断した
- 現状の漁獲圧で資源は安定的に利用されている
- 現状の漁獲水準は、資源水準を維持する上で適切である

管理方策のまとめ

- 現状の漁獲圧レベルを維持し、これを上回らないように調整する

資源評価は毎年更新されます。